

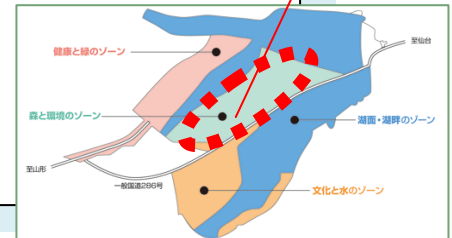


# みちのく森林の里山がより 第11回

## みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



## 平成28年2月27日（土）キノコのコマ打ち！

寒さの中に春の気配がそこそこに。フキノトウがあちこちに顔を出しています。「寒」の里山活動に、キノコのコマ打ちがあります。この里山では、平成25年の12月にコマ打ちをしてから、久しぶりの活動です。前に打ったホダ木の様子もお伝えしますね。

## キノコの駒打ち

「キノコのコマ打ち」って何？

駒打ちというのはきのこの栽培方法の中の一つの工程です。現在ではきのこを栽培するには、原木栽培と菌床栽培の2通りの方法があります。

ここで行ったのが原木栽培です。原木栽培には「原木」と言われるそれぞれのきのこに合った木（きのこが育つための家）と、「種駒（径1cm、長さ2cm程の円筒形をした木片に、きのこの菌糸を純粋培養したもの、きのこのモトがいっぱい詰まったもの）」が必要になります。

その原木にドリルなどで駒の入る位の大きさの穴を開け、種駒を埋め込みます。この作業を「駒打ち」と言います。この種駒を埋め込んできのこが生える状態になった原木を「ほだ木」と言うのです。

▼原木に穴をあける



今年のコマ打ちは、シイタケとナメコ。シイタケはコナラ、ナメコはサクラを原木にします。公園の南地区で伐採した木と、里山地区で伐採した木を使用しました。原木は、あらかじめ1mの長さに玉切りしておきます。

太さが直径15cm程度のきれいな原木を選び、専用のビットを付けた電動ドライバーで穴を開けました。キノコ栽培は、キノコの菌と雑菌とが、ホダ木で陣地取りをするようなもの。木材は縦方向には管が通っていて、菌がまわりやすいのです。キノコの菌が回るように、縦方向は広い間隔で、横方向は狭い間隔で、穴をあけます。原木にあけた穴に、コマを埋め込みます。あけた穴にコマを入れて、上から木槌で叩いて、しっかり埋め込みます。

▼これが「駒」



▲駒打ちをしています





原木の運搬



原木にドリルで穴開け



原木にコマ打ち



プレートづくり、日付と活動したメンバーの名前

### 前回のホダ木の状態

前回のコマ打ちは、平成 25 年 12 月。あれから 2 年と 2 カ月が過ぎました。前回植えたナメコは去年の秋にたくさん生えました。この春にはシイタケが初めて生え始めています。まだまだ小さいですが、雨が降って、気温が上がれば、ぐんぐん大きくなりますよ！



しいたけ

### 雪の遊び道具

雪が降ったら遊んでもらおうと、ボランティアが工夫をこらして雪の遊び道具を作っておきました。

もう雪が消えてしまいましたが、落ち葉の上なら使えるかな？ けっこう、楽しめましたね～。来年の冬までにさらにバージョンアップを狙っておきます！



スケートボード



そり